

ウィズリブ馬淵：地域連携推進会議 会議資料（R7.12.22）

====

目次

A.ウィズリブ馬淵について

- ①施設案内・提供しているサービスについて
- ②医療体制について

B.利用者の日々の様子について

- ①利用者M様よりウィズリブでの生活についての聞き取り
- ②支援員より日々の対応について報告

C.非常時の対応について

- ①自然災害対策
- ②感染症対策
- ③火災対策

D.課題、今後の展望について

- ①ヒヤリハット報告について（ウィズリブ八幡T様事例）
- ②今後の地域との関係について

====

A.ウィズリブ馬淵について

①施設案内・提供しているサービスについて

①ー1 ウィズリブ馬淵の施設形態

- 静岡市駿河区馬淵3-18-35

また、同じ共同生活型GHウィズリブ岳美と、アパート型GHであるウィズリブ八幡も同市内で運営している。

岳美は男性専用。

①ー2 提供しているサービスについて

- 食事提供

・朝、夕食の提供。冷凍ミールなどは使わず全て自炊で提供。利用者のアレルギー、体調に合わせて柔軟に対応を行っている。

- 夜間支援

- ・利用者ごとの個別支援計画に沿った支援を行う。
例.不安によるパニック時の傾聴、不穏時の頓服服薬対応など。

- 金銭管理

- ・お金の預かりを行い、毎日お小遣いとしてお渡し。使いすぎや、過度な間食の抑止、金銭管理を通した自立支援を目指している。

- 医療サービス（後述）

- 行政手続き

→障害福祉サービス受給者証、自立支援医療受給者証のような福祉サービスの手続きだけでなく、マイナンバーなど各種行政サービス更新、利用のお手伝いをしている。同行もしくは代理手続きにて対応。

- 定期的なレクリエーション

- ・クリスマス会などの定期的なレクリエーションを通して利用者間のコミュニケーションを深めている。また、誕生日には誕生日会を開催する、お菓子づくりを企画するなど、日々の生活がより楽しくなるような試みを行い、利用者の生活の満足度を高めるように努めている。

②医療体制について

- 静岡駅南口クリニックを提携医として契約している

- ・利用者のニーズに合わせて契約、利用をしている。

静岡県静岡市駿河区南町18-2 サウスポットガーデン 1F

- ・精神科、皮膚科、内科の医師で精神から身体まで幅広い体調不良に対応。
- ・月2回の訪問診療の実施。
- ・訪看、訪問診療医とウィズリブ管理者でライングループを構築しており、そこで日頃のご様子のやり取りをしている。
- ・夜間営業をしており緊急時は連絡を入れることで対応可能。（事例1：嘔吐と原因不明の腹痛の訴えがあり緊急での訪問要請。 事例2：高熱が夜間に出たことによる緊急での訪問要請）
- ・診療後は薬局による配達にて薬が届けられる。

- 訪看Luanaと提携契約をしている

- ・利用者のニーズに合わせて契約、利用をしている。

静岡県静岡市駿河区下島965

- ・毎週決まった曜日に訪問。
- ・健康観察（バイタルチェック、面談）を実施。記録の共有を行っている。
- ・夜間営業をしており緊急時は連絡を入れることで対応可能。
- ・南口クリニックとは提携関係にあり綿密に連携をとりながら医療支援を行っている。

B.利用者の日々の様子について

①利用者M様よりウィズリブでの生活についての聞き取り

- 参加者を交えての聞き取りを実施。
- ・ウィズリブの日々の支援について思うこと
- ・ウィズリブでの生活を初めてよかった部分
- ・ウィズリブでの生活で不便、不満に感じる部分

②支援員より日々の対応について報告

- 参加者を交えての聞き取りを実施。
- ・日頃の支援で気をつけていること

C.非常時の対応について

①自然災害対策

①ー1 災害時の対応について

- ・自然災害対策マニュアルを策定しており、手順がフローチャート式になっており、緊急時に迅速に対応できるようになっている。また、細かい基準を考慮した上で指示待ちにならず、現場で判断ができるように整えている。
- ・安否確認が最優先。
- ・利用者居室が散らかりやすく、災害時にケガの恐れがあるため、時折声掛けをしてこまめに整理頂いている。

①ー2 施設備品について

- ・備品については食料と水はもちろん、前年度から携帯トイレを導入した。備蓄については基準である5日分あるが、補助金を使いながら、基準値よりも多く準備していく予定。必需品の基準については静岡市の防災マニュアルを確認した上で判断準備を行っている。
- ・備品の点検については毎年開催している防災訓練時に社内事務と連携をとりながら不足があれば補充を行い、消費期限の確認も含め行っている。備品の場所についてもマニュアルに記載。

②感染症対策

②ー1 平時の対応について

- ・消毒液、マスク、ガウンの定期的な在庫確認を管理者で行い、非常時に備えている。
- ・消毒チェックシートを活用して毎日の消毒を習慣化し、予防している。
- ・訪問看護と業務提携をしており毎週健康観察を実施している。

②ー2 発生時の対応について

- ・感染症マニュアルを準備しており、こちらも手順が明確化されている。
- ・災害対策と同様、定期的な研修を実施。
- ・コロナ禍以降は風邪といった軽い症状でも感染が広がらないように現場報告と迅速な対応、指示を行っている。
- ・2025年度は利用者が複数名感染していったことは起こっていない。
- ・インフルなどの発生時は自室療養を行い、職員はガウン対応。関係機関への迅速な連絡を行っている。

③火災対策

③ー1 発生時の対応について

- ・自然対策マニュアルにてフローチャートを明示。
- ・マニュアルにて消化器と避難場所を指定している。
- ・火災時の動きは年に一回防災の日に利用者と確認を行っている。

D.課題、今後の展望について

①ヒヤリハット報告について（ウィズリブ八幡T様事例）

①ー1 経緯

2025年某日、八幡利用者Tさんが近隣住民から挨拶を受ける。

Tさんは全般的に不安障害で人とのコミュニケーションに恐怖を感じやすく、逃げ出してしまった。

→該当のアパートの住民と職員でお話しをし、Tさんの情報を一部開示し向こうも「大丈夫ですよ！むしろ不安にさせたようですみません」とお返事いただきことなきを得る。

①ー2 課題

- ・基本はGHであること、利用者が障害があることは近隣住民には十分には伝えていない。また、利用者もそれを望んでいないため、イレギュラーな接触やコミュニケーションが発生した時に対応が難しい。

①ー3 総括

- ・地域に開かれたGHであるために周辺住民への配慮も同時に気をつけなければならない。GHの不注意が利用者への偏見や差別を助長する。
- ・馬淵は自立度が高いものの、精神疾患によるトラブルについては十分に考えられるため、近隣住民などとの関係についてはより一層注意をはらい、コミュニケーションが必要な際は助力をして行きたい。

②今後の地域との関係について

●馬淵の利用者の特性上、周辺との交流は難しく、「GHであること」を開示してほしくない利用者がほとんど。

→開示情報を適切に絞りながら職員と管理者で周辺住民と関わっていく必要がある。

・実際近隣住民とは職員が間に入ってやり取りをしており、大きなトラブルもないため、特に偏見や苦情はなく挨拶をされたりと良好な関係を築けている。

・近隣住民によってはどんな方が生活されているのか気になっている方もいるが、プライバシー優先で最低限の情報だけお伝えしている。

・地域行事（清掃など）は職員のみ参加をするなどに対応。